2019 年度実施概要

学校名

気仙沼市立鹿折小学校

採択活動名

海で復興・未来へつなぐ『気仙沼の魅力』発信プロジェクト

取り組みの概要

１．はじめに

東日本大震災から９年が経過した今，大きな被害を受けた気仙沼・鹿折地域の復興を願うとともに，海とのつながりを見つめ，気仙沼の未来について考える「海で復興・未来へつなぐ『気仙沼の魅力』発信プロジェクト」を設定した。海とともに生きることを大切に，復興，そして気仙沼の新しい未来に向かって力強く立ち上がろうとしている「人・産業・まち・環境」について調べ，私たちが考え思い描く気仙沼の姿を発信する活動に取り組んできた。

また，学習指導要領改訂に伴い，「生きて働く学力」を育成するために「地域に開かれた教育課程」の具現と児童の学びを有意味なものにするカリキュラム・マネジメントの推進が求められている。

そこで，児童にとって身近な「海」をテーマに学びを整理し，自ら「問い」をもち，より探究的な学習を通して考えを広げ深め，行動できる子どもの育成を目指して海洋教育の実践に結び付けたいと考えた。

２．ねらい

鹿折・気仙沼地区で働く人々のふるさと復興へ向けた熱い思いと，水産業を通した世界とのつながりから考えを広げ深め，海と人との共生・共創を目指す気仙沼のために自ら行動できる児童を育む。

３．学習活動の概要

（１）地域素材（産業・環境・地域遺産）を活用しふるさとを知る活動

鹿折地区には，水産加工場や造船所が多数存在しており，気仙沼市の基幹産業である水産業を支える周辺作業が多い地域である。また，リアス式海岸の特色を生かしワカメや牡蠣の養殖を行ったり，鹿折川及び支流を利用し農業を営んだりなど，恵まれた自然環境を生かした取組が行われている地域である。

第３学年では，「鹿折の宝」をテーマに伝え受け継がれる伝統的な踊りや太鼓，地域の宝である豊かな海を利用しながらワカメ養殖を営む漁師を訪問し，種挟み体験や収穫の手伝いを行うなど，海に親しむ体験を通して地域・ふるさとのよさを知る活動を行った。

第４学年は「命を育む水」をテーマに鹿折川の環境調査，稲づくり体験活動を行った。鹿折川に生息する環境指標生物を採取し，鹿折川の汚染状況を調査し，その原因がどのようなところにあるかを考えた。また，調査活動を通して，水と人のつながりを見付けることができ，鹿折地区は湧き水が豊富な土地であることに気付くとともに，その豊かな水を利用して稲づくりを営む農家の人と一緒に稲づくり体験を行った。２月２８日には自分たちが育て収穫できた米と鳥取からの支援米，３年生が刈り取ったワカメでおにぎりを作り，農家の大変さや恵み豊かな自然，食物への感謝の気持ちを育む活動を行った。

（２）教科・領域を横断的に学ぶ学習活動

第５学年では，総合的な学習の時間や社会科を中心として教科横断的に学習を進めた。９月に総合的な学習の時間で「気仙沼鹿折水産加工協同組合」「気仙沼ほてい」の水産加工場を見学し，水揚げされた魚がどのような工程で何に加工されるか，工場で行われる様々な工夫に課題意識をもちながら見学をした。

その後，１０月に気仙沼市の漁業を支える「みらい造船」の新造船建造工程を見学した後，「マグロ延縄船」の乗船体験を実施した。船を建造・修繕する人が漁師のためにどのような工夫をしているか，そして船に乗りマグロを獲る漁師は造船所で船を建造・修繕してくれる人にどのような思いをもっているかや，船を媒体にして思いや願いを叶える技術・工夫を詳しく知ることができた。

社会科での水産業の学習を中核に据えながら，総合的な学習の時間と横断的に進め，学習内容をさらに深化させたいと考えた。総合的な学習の時間で見学した様子を撮影した写真や動画を社会科の授業の導入で提示し児童の関心を高めたり，児童の自力解決・グループ活動の際に気付きを引き出すための資料として使用したりすることで，学習内容を横断させるためのツールとして活用した。また，単元で扱った「船」「水産加工品」の教材は，食・産業・環境・国際など多面的な視点でも考えることができ，多領域にグループ分けを行い，つながりを考えていくことで児童の考えを深めさせることができた。

（３）他地域や世界とのつながりから知識や考えを広げ深める学習

第５・６学年では，今回教材化した「水産加工場」「造船所」「マグロ延縄船」を学ぶことで，「労働者・後継者不足」「労働力の国際化」等の共通の課題を見付けることができた。鹿折地区にある水産加工場，気仙沼市から出航する漁船の多くが労働者不足という共通の課題を抱えており，それを補うためにインドネシア人やベトナム人を研修生として受け入れている。

そこで，鹿折地区にある水産加工品を製造している「ミヤカン」を訪問し，外国人との交流会を設定し，直接外国人労働者に対し，来日した理由や企業の方に気仙沼市の水産業の現状等について質問する場を設定した。

また，国際グループは，鹿折公民館で開かれた日本語教室に参加することができた。活動を通して，来日する外国人労働者が気仙沼の魅力やよさが分からないという悩みがあることを受けて，「気仙沼観光パンフレット」の作成に取り組んだ。気嵐や徳仙丈のツツジなど，気仙沼の魅力を盛り込んだパンフレットをインドネシア人に見てもらい，気付いた点やさらに工夫した方がよい点などアドバイスをいただくなど，さらに交流を深めることができた。水産加工場以外にもマグロ延縄船に乗船する外国人労働者も年々増加しているという現状も知ることができた。

本市は水産業の町として有名だが，水産業を支えているのは日本人だけでなく外国の人も多く，国際水産文化都市を標榜し，他地域にない多文共生を実現すつ，グローバルな町であることに改めて気付くことができた。

世界とのつながりを学ぶことで，児童の気付きにも変化が現れた。世界に視野を広げ，SDGs の目標を意識しながら学ぶことで，自分たちの生活と世界の国や人の生活に関心を向ける児童が増えた。特に，貧困に苦しむ人々の生活などを調べるために，ラオスに在住経験のある宍戸仙介さんの話を受けて，少しでも貧困が改善されるようにボランティア活動をしたいと考える児童が出てきた。書き損じ葉書と文房具の支援に協力を呼びかける活動を全校で行い，気仙沼ユネスコ協会の協力を得て世界寺子屋運動に参加したり，宍戸さんの仲介によりラオスに送ることができたりした。児童の学びを世界とつなげ，身近な場所で相手意識をもって具体的に行動する活動を行ったことで考えを深め，ＳＤＧ

ｓを実行する自動に必要な生きて働く力を育む学びにつなげることができた。

４．成果と課題

（１）成果

地域素材を活用したことで，児童にとって身近な気仙沼市・鹿折地区のよさ（魅力）と課題について自分事として考えることができ，学ぶことの目的意識と有用間感をもたせた学習ができた。課題解決に向けて自分たちの考えや実践可能な取り組みを吟味し，振り返る際にも，誰に対して何の目的で活動を行うかがより明確になり，自ら進んで行動する児童の姿が多くなった。

また，教科横断的に考え，グローバルな視点に立って課題をとらえることで，多角的・多面的に物事を考えたり，探究的・分析的に学んだりする学び方を身に付けることができた。物事の原因や理由，背景・根拠，解決策などを調査し，論理的に整理しながら考えをまとめる過程を通して自分が分かったことを他教科で生かすことができ，活用する中で個々の考えを広げ深めることができた。

（２）課題

地域素材を教材化し，児童の学びを高めるためには，学年間・単元間の内容を体系的に組み立て，オーセンティック（本物）な学びの文脈になるように改善する必要がある。来年度は，海洋教育特例校として「海と生きる探究活動」の学習に取り組む。海洋教育を通して教科領域を横断的に進めながら児童の学ぶ内容や資質・能力を更に高める必要がある。

活動中の写真①

【５年生・みらい造船所見学】地域の産業・人から世界とのつながりを学ぶ探究的な活動

活動中の写真②

【３・６年生：児童会活動（寺子屋活動)】ユネスコ協会に書き損じはがきを届ける

実施単元名　※実施した単元の数に応じて記載してください

1. ししおりのしき（１年生）
2. どきどきわくわく町探検（２年生）
3. 鹿折の宝～人・自然・もの～（３年生）
4. 山・川・里・生みの生命をつなぐ鹿折川（４年生）
5. 世界につながるぼくらの海郷学（５年生）
6. 海で復興　未来へつなぐ「気仙沼の魅力」発信プロジェクト
※ 教育課程外　寺子屋活動